



【初回放送日 2018年1月26日(金)】

みなみの考え「3月のライオン」で考える いじめのこと



部活内で起こったトラブル。

はるなさんは、トラブルを起こした部員の人柄や、トラブルの起こった状況が分からなかったので、動けなかったと話してくれました。

でも、ある人が行動を起こしたことで解決したそうです。

いったい誰がどんなことをしたんだろう？

はるなさんの体験談

LINE でかげロを言い合う事が多かった、はるなさんの学年。ある日、先輩がはるなさんの学年全員を集め、『言いたいことは直接言え!』と話し合いをさせた。

- 「みんな本当のことを言うのかな?と置いていたら、トップバッターの子がガンガン攻めて話し始めて、みんなもどんどん話すことができた」
- 「先輩からしたら最終兵器ぐらいの感じだったと思うんですけど、その場を設けてくれたおかげで自分の悪いところも良いところもわかった。この人こうだったんだとか再発見できたので、すごくいい機会だった」



・・・と、先輩が話し合いの場を作ってくれたんです。

高橋さん

すごいよかったですね。やっぱり腹を割って話すのが大事なんだなーって思いました。

でももうまくいったのは、スタートダッシュを決められた人がいたからなんですよね。

先輩が『ここで言ったことは別に後腐れなく怒らないよ』って、『言っちゃいなよ』って言ったときに、全員が下向いたらもう成立はしなかったと思うんですけど、やっぱりトップバッターの子がガンガン言ってたから、『あっ自分も言っているんだ』っていう場になったという。その空気づくりが、すごくいい感じに回ったんだなと思いました。

スタートを決めた人が日頃しゃべらない人だったとかね。いつもよくしゃべる人とかが言っても、『はい、また言いました〜』ってなるんですけど、いつも寡黙^{かもく}で何も言わないような人が『言います』って言ったら、ほかの子も言いやすくなる空気ができるので。

でも、そういう寡黙^{かもく}な人にみんなの前で話してもらうのは…



高橋さん

そこが肝であり、一番難しいことなんですよ。



高橋さんだったらどうしますか？

高橋さん

私は円になって話さないかなあ。私の場合、何か問題があったらひとまず全員に1対1で話を聞いて、話をまとめると『あっ、この子とこの子が話さなきゃいけないんだな』っていうのが見えてくるわけですよ。そしたら、またその子たちに話を聞いて、『(あなたが)行って話した方がいいんじゃないの？そうじゃないと噛み合わないよね、自分から行けないんだよね、じゃあちょっと私が場所をつくるから2人で話しなっ』ていうやり方なので、全員で一気にバン！と話させるは結構リスクが高い。

だから、はるなさんたちはすごいなって思いました。普通、『後腐れなく言おうぜ』って言っても、後で『あの子にあんなこと言われたんだ』って引きずる人が多いので、みんなちゃんとあそこの場所でバン！って切れたんだなっていうのがね、ちょっと尊敬しましたね。



マンガ「3月のライオン」で描かれていた、ひなたへのいじめ。

こちらは先生たちが動いたことで事態が急転します。

先生たちがチームを組んで教室に乗り込み、加害者グループをバラバラにし、個別に事情を聞き始めたのです。

すると「暗黙のルールがここからは通用しなくなる」「もう次のターゲットは自分かもと怯えて過ごす日々は終わるのかもしれない」と、クラスの空気が変わっていきました。

動けない状況を変える方法は一つじゃない！

みんなにも出来ること、何があるかな？

クラスみんなや先生と考えてみてね！